自ら学ぶ生徒を育てるための新聞活用はどうあったらよいか

実践校第１年次　諏訪郡富士見町立富士見高原中学校　矢島　和明

Ⅰ　本校のＮＩＥの現状

本校は全校生徒３４０名，学年４～５学級の学校である。来年度，富士見町立南中学校との統合を控えている。ほぼ全家庭で新聞を購読しているが，生徒はテレビ欄やスポーツ欄，事件・事故の記事を読むにとどまっているのが現状である。

校内においては，社会科や理科，道徳あるいは学年・学級通信において新聞記事を活用しているが，系統立てての活用には至っていない。また「ＮＩＥ」の事業についてはほとんど知らない職員が大半である。

そこで，本年度は，本校研究テーマ「自ら学ぶ生徒を育てる指導はどうあったらよいか」に照らして，自ら学ぶ生徒を育てるために，どのような新聞活用の方法があるのかを研究しようと試みた。各教科でつける力を明確にし，その力をつける手だてとして新聞活用を取り入れられるのではないかという立場で「総合的な学習の時間」と「２学年選択国語」において実践を試みた。

Ⅱ　ＮＩＥ実践のねらい

以下の「研究の仮説」（表１）に示すように，学校全体の課題・手だて・目指す姿と，それに照らして授業学級・教科等における課題・手だて・目指す姿を考えた。

表１　研究の仮説

《このような生徒に》

全　体	総合的な学習の時間	国語（２年選択国語）
与えられた課題に対しては誠実に取り組むが，解決すべき問題を自分の手で見つけ出し，問題解決の方向を探り，追究していく経験が少ない生徒	・一度作成した新聞で満足してしまっている生徒 ・わかりやすく伝わる新聞はどのように作成していってよいか迷っている生徒	・上手に思いを表現して書くことを苦手としている生徒 ・生活や学習の中で参考となる意見文のモデルに出会えないでいる生徒

《このような新聞活用による単元・題材，授業を展開していけば》

全　体	総合的な学習の時間	国語（２年選択国語）
「新聞学習の要素」から追究場面に応じた新聞活用を考えて単元・題材・授業を展開する（「新聞学習の要素は冊子「NIE 実践の手引き」に記載されたもの」	・一般新聞の見やすさ等の良さに気づかせる ・長野県 NIE 推進協議会の方から様々なことを教えてもらう	・新聞の投書欄の文章から書き方を学ぶ ・新聞記事や投書に書かれた事実や主張を色分けして，意見文の見通しをもたせる

《このような目指す姿になるだろう》

全　体	総合的な学習の時間	国語（２年選択国語）
自ら進んで学ぶようになるだろう	自信をもって自ら新聞づくりを進められるだろう	自信をもって自ら意見文を書き進められるだろう

Ⅲ　研究の概要

１　実践した教科等

「総合的な学習の時間　１学年『富士見高原中学校講座』」　「選択国語　２学年」

２　新聞の提供状況

○　９～３月の７カ月間，購読計画に基づき，７紙を購読した。

○　図書館に新聞を置くテーブルを用意し，生徒が自由に見られるようにした。

○　生徒昇降口に「本日の新聞一面」コーナーを設けた（**写真１**）。係職員が毎朝，購読している新聞の一面をカラーコピーして掲示するとともに，「今日の注目記事」（**写真２**）として，注目記事の説明や感想を掲示した。

写真１　「本日の新聞一面」コーナー

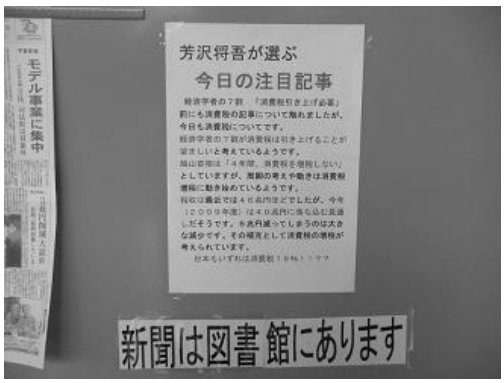

写真２　「本日の注目記事」

３　新聞を取り入れた実践をする上で特に工夫をしたこと

今年度の本校研究テーマと冊子「ＮＩＥ実践の手引き」記載の「新聞学習の要素」との関連を考え，それが実践授業を行う「総合的な学習の時間」と「選択国語」の単元あるいは１時間の授業の中でどのように位置付くのかを考えた（**図１**）。

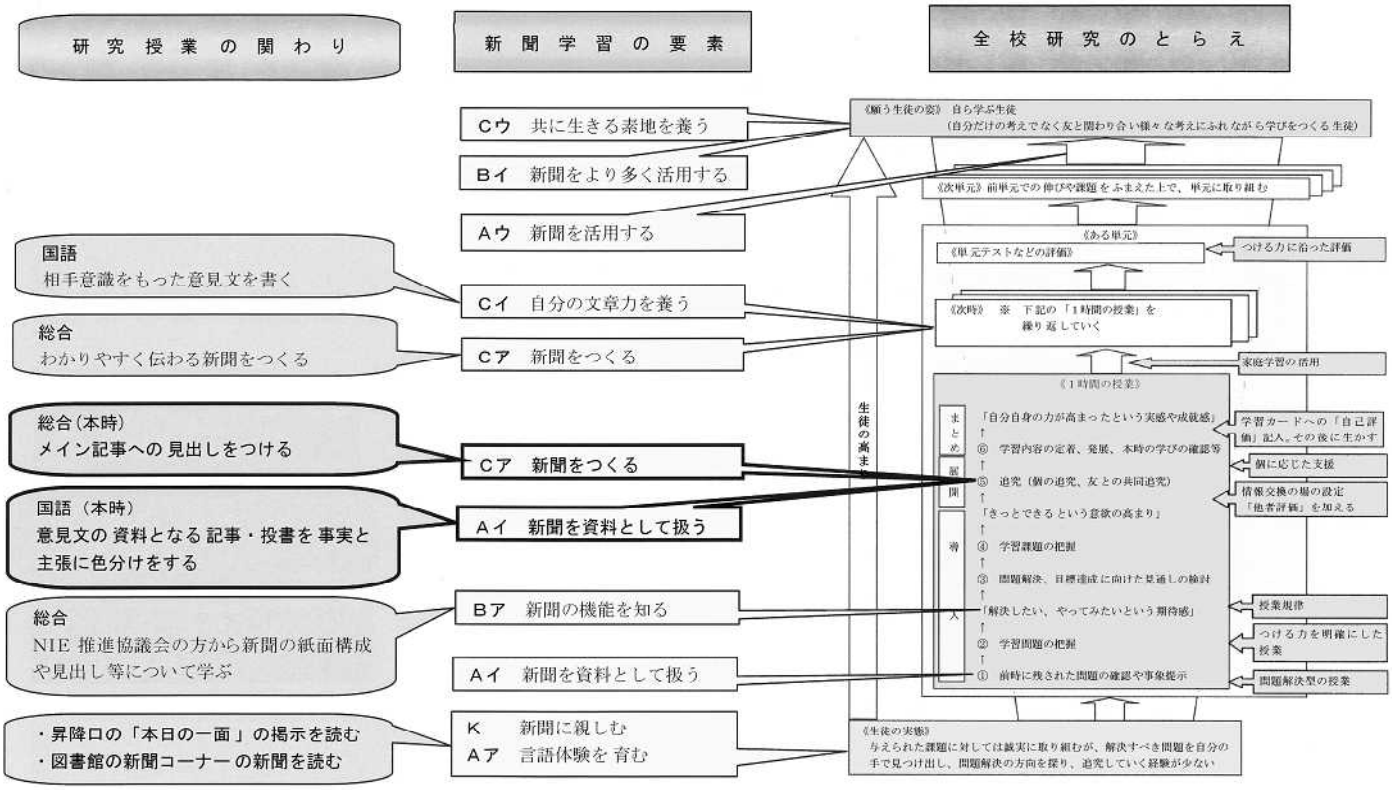

図１　全校研究と新聞活用の関連

Ⅳ　ＮＩＥ実践の内容

１　「総合的な学習の時間」での実践

（１）授業学級　　１学年「富士見高原中学校」講座

（２）題材名　　「閉校式典に展示する『高原中新聞』をつくろう」

（３）題材設定の理由

「富士見高原中学校」講座では，閉校に向けての様々な人の思いや今後についてのことを課題として取り組んでいる。所属生徒は，調査したことをもとに「すずらん祭」(文化祭)で新聞形式にして展示した。作成された新聞について生徒は満足しているが相手への伝わりやすさという観点で見ると「見出し」「レイアウト」等の点で弱い部分が多く見られた。

そこで，閉校式典に向けて新聞を作り直す題材を展開する。そこでは，まず校長先生にお話をいただいたり，自分の新聞を振り返ったりして，生徒たちの意欲を高める。そのことにより，来ていただくお客様方によりわかりやすく，相手を意識した「高原中新聞」を作っていこうという気持ちを高める。相手にわかりやすい新聞作りということで，一般新聞を見て工夫してあるところを調べたり，長野県 NIE 推進協議会の方をお迎えして読み手にわかりやすい新聞にするための大事な観点を教えていただいたりする。その後，各自がメイン記事を主にしながら，新聞を書き直していく。書き直していく中で，読み手にわかりやすい新聞にするために，伝えたいことがより伝わる記事，見出しにし，レイアウトを行っていく。そして，作成した新聞を閉校式典会場に展示する。このような題材を展開することによって，閉校式典での展示を引き受けた使命感と長野県 NIE 推進協議会の方からのご指導をいただいて得た自信をもとに，自ら進んで読み手にわかりやすい見出しや記事，レイアウトを工夫しながら新聞を作成できるようになると考え，本題材を設定した。

（４）教材化

①　新聞形式でのまとめ

１学年総合的な学習の時間のねらいの一つとして，結果をまとめる力がある。文化祭の展示では，この結果をまとめる力をつけるために生徒にまとめの形式について問いかけた。多くの生徒が小学校での経験などから「新聞を作りたい」という答えが返ってきた。新聞にする理由としては「文章だけでなく絵や写真などいろいろなことを載せやすく，読む人も読みやすい」などが挙げられ，新聞形式でのまとめは生徒にとって無理なく取り組めるまとめ方であることがわかった。教師は，本講座が閉校式典で発表をすることや他の講座と違って体育館への展示があることなどを伝える。さらに校長先生から閉校への思いや本講座への期待などを語っていただく。これらによって生徒は使命感が生まれ，よりわかりやすく伝わる新聞を作ろうという意欲が生まれると考えた。このような生徒たちが，新聞の作成方法などを本格的に学んでいくことにより，読み手に伝わるわかりやすいまとめ方が理解でき，自信をもって新聞づくりを進められると考えた。

②　新聞の見出しをつける活動

前時までにメイン記事を書き上げた生徒は次の課題として「見出しをつけたい」と願うだろう。そこで本時，教師は，一般の新聞の見出し部分を隠してどんな言葉が入るか問う。その後，実際の見出しを明らかにして感想を聞く。生徒は，自分のメイン記事への見出しも一般の新聞の見出しのようにしたいと願い，追究を始めるだろう。この見出しをつける活動を通して，自分のメインの記事を要約してまとめる力やより読みやすく

関心を引くためのデザイン，レイアウトなどを考えて作成する力がつくものと考えた。

③　長野県ＮＩＥ推進協議会の方々からの講義

生徒が新聞づくりを学んでいくうえで,教師ではわかりかねる専門知識･技能がある。そこで，長野県ＮＩＥ推進協議会にお願いをして，講師を派遣していただくことを考えた。前時までに新聞全体についての講義や演習をしていただき，本時では見出しについて教えていただく。このような活動を通して，専門知識や技能を習得し，一般紙のように，わかりやすく伝わるものを作ろうとする意欲をもたせることができると考えた。

（５）本時案

①　主眼：閉校式典に展示する新聞を作成している生徒が，新聞の見出しを考える場面で，NIE 推進協議会の方から新聞の見出しについて教わったり，同じ記事を書いている友だち同士で話し合ったりすることを通して，より伝わりやすい見出しを決定することができる。

②　本時の位置（全１９時間中第１３時）
前時：メイン記事を完成させた。
次時：メイン記事以外の記事を完成させたり見出しをつけたりする。

③　展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導･援助　評価	時間	備考
導入	1　学習問題と学習課題を確認する。	学習問題：閉校式典に展示する，よりわかりやすい「高原中新聞」を作ろう ア　わかりやすい新聞を作りたい。 イ　自分の伝えたいことが伝わるものにしたい。 学習課題：伝えたいことがより伝わる見出しを決めよう	◇前時の活動を振り返り学習課題を設定させる	3	前時のプリント 自分の新聞
／展開	2　実際の新聞の見出しを考え，実際の見出しについて感想を述べる	ウ　見出しって難しいな。 エ　これじゃあよくわからないかな。 オ　私も，伝えることがより伝わる見出しをつけたいな。 カ　新聞社の方はどんな風に見出しをつけているんだろう。	◇見出しを隠した新聞を配布し,自分で見出しを考えるように促す。 ◇机間指導をする。 ◇実際の見出しを提示して，感想を発表させる。	8	一般紙
	3　長野県 NIE 推進協議会の方から，見出しのお話をいただく。	キ　見出しは,10 文字以内で概略が書かれているんだな。 ク　『･･･について』『目的』『方法』『考察』は見出しにしちゃいけないんだな。 ケ　伝えたいことがより伝わる見出しにしたい。	◇講師の方がお話されたことを板書していく。	8	(資料)
	4　長野県 NIE 推進協議会の方のお話に照らして自分の作った見出しを考える。	コ　長すぎて，これはダメだ。 サ　『･･･について』を取るとどうだろう。 シ　記事の内容が一目でわかるものといえば『制服の変化』かな。 ス　『高原中の歴史』は，もう少し具体的にしたほうがいいかな。	◇候補として考えてきたものから考えさせる。 ◇机間指導をする。	15	
	5　同じ記事を書いている友だち同士で見出しを見て，考える。	セ　『高原中の生徒数減少』と考えたけど…。 ソ　『減り続ける生徒数』というのは,どう？ タ　ソさんの方が読みたくなる見出しだね。 チ　もっと，伝わる見出しがありそうだから，一緒に考えよう。	◇意見交換をさせる。 ◇机間指導をする。 ◇講師の方にも見ていただき指導していただく。	8	
／終末	6　メイン記事を決定し，本時を振り返る。	ツ　ソさんたちと話し合って認められたから,『減り続ける生徒数』にしよう。 テ　前より伝わりやすい見出しになった。 ト　見出しを考えるのは難しかったけれど，決まってよかった。 ナ　次の時間はメイン記事以外の記事を書いて見出しもつけたい。 ニ　閉校式典で，みんなに読んでもらえるといいな。	◇ワークシートに記入させる。 伝えたいことがより伝わる見出しを決定することができる。（ワークシート）　〔技・表ａ②〕 ◇見出しが決まらない生徒にはメイン記事をもとに共に考える。	8	ワークシート

（６）授業の実際と考察

①　長野県ＮＩＥ推進協議会の方から教えてもらったことをもとにしながら，読み手にわかりやすい見出しの見通しがついたN生

ＡＴ：記事の中で一番伝えたいことを見出しに持ってこよう。そして，見出しは具体的に，一目見てすぐわかる見出しがいいです。10 字くらいの短い言葉にしよう。
N生は，自分の見出しを考える場面で，鉛筆を持ったまま自分のメイン記事を読み直しながら，しばらく考えていた。そして，「高原中火災!!」と書き入れた。

【考察】

高原中学校の歴史を調べていく中で過去に火災があったことを知り，興味を持ち，調べて記事にしたN生。どの言葉を短く見出しに持ってきたらよいのかしばらく考えていたが，長野県ＮＩＥ推進協議会の方から「一目見て，すぐわかる見出しがいい」というお話を聞き，見出しを考えることができた。長野県ＮＩＥ推進協議会の方から見出しについて教わったことは，わかりやすい見出しの見通しを持つために有効だったことが示唆される

②　メイン記事の内容が同じ人でグループになり見出しを考える場面で，友だちのアドバイスからよりわかりやすい見出しがつけられたN生

Ｉ生：Nさんは，どんな見出しにした？
N生：「高原中火災！」
G生：短く，わかりやすい見出しになっているね。
Ｉ生：いいんだけどさ，火事記事だと，暗いし悲しい感じだから閉校式典で読んでくれる人が暗くならないように，前向きな見出しもつけた方がいいんじゃない。
しばらくみんな考える。
A生：また，学校が元通りになっていく感じがわかればいいんじゃない。
N生：そうだね。
Ｉ生：再びチャイムが鳴るまでは？
A生・N生・G生：いいね。
N生：「高原中火災！！＝再びチャイムがなるまで＝」にしよう。

【考察】

「高原中火災!!」で満足していたN生。メイン記事が同じ内容のＩ生から具体的なアドバイスをもらい納得しながら第２の見出しもつけることができた。N生の学習カードには「グループの話し合いの時にいいところを言ってもらってうれしかった。そして，前向きな見出しもつけた方が読み手が悲しい気持ちにならないで前向きになるということがわかって，みんなで考えられて自分でも納得する見出しがつけられてよかった」と書かれていた。このことから，メイン記事の内容が同じ人でのグループの話し合いを取り入れたことは，相手にわかりやすい見出しを決めるのに有効だったことが示唆される。

③　閉校式典という目標を設定したことで，新聞作りを前向きに考えたN生

〈N生の本時の学習カードより〉
閉校式典は大事な会で，高原中のことを思っているたくさんの人が来るから，前に作った新聞よりよくしたいと思って，見出しを考えた。ＮＩＥ推進協議会の方から，見出しについて教えてもらったり，友だちからアドバイスをもらったりして，前よりわかりやすい見出しがついた。メイン記事の見出しがついたし，これからもがんばって次の記事を書いていきたい。

【考察】

文化祭での新聞展示に満足していたN生。その新聞を校長先生から閉校式典に展示するということをお話いただき，今よりもっと読み手にわかりやすい新聞を作ろうと決意したN生。友だちからアドバイスカードをもらったり，ＮＩＥ推進協議会の方から新聞の作り方を教えていただいたりしたことで，見通しを持って新聞作りをすることができていた。このことから，閉校式典という目標を設定したことは，自ら進んで新聞作りをするために有効だったと考えられる。

2　「選択国語」での実践

（１）授業学級　　２学年選択国語

（２）単元名　　「意見文を書こう」

（３）単元設定の理由

「新聞の投書欄はおもしろいからよく読んでいます。興味があるものは，記事も探して読んでいます。だから意見をもったり，書きやすかったりするのかもしれないです。」

（本選択講座女子の第３時の感想より）

本年度の選択国語２学年では，書く力を高めることを目標にして授業を展開している。一学期，生徒たちは身の回りのことを中心に，思ったこと・感じたことを文章にする学習を行ってきた。しかし，しばらくすると「書き出しをどうしたらいいのかわからない」「書きたいことはあるが，どうしたら書けるのかがわからない」等，書きたいことを正確に表現することができなかった。そこで「意見文」を書く単元を設定する。「意見文」は，自分の主張や意見を書くものであるので，単元を通して，書く力がつくものと考える。そこでは，意見文を書くときの参考となるモデルや資料として，新聞の記事や投書を扱う。新聞の記事は事実・主張が公正に書かれているため，意見文の資料として適切である。また，読者の投書は，限られた字数の中でまとまった意見が述べられていて，しかも，新聞掲載にあたっては多くの人の目を通っているので，確かな文章であるため生徒が意見文を書くときのモデルや資料として適切である。まず第１・２時に，新聞記事を読み，意見文を書く。第３時では，上手に書けた友の発言をきっかけに投書に着目し，投書に書かれた事実を赤，主張を青に色分けする。また，投書だけを参考に意見を書くと，事実関係が曖昧になりがちなため，元の記事についても投書と同様の作業を行う。第４時以降は，第３時までの学習を元にしながら，意見文を作成する。このように，新聞の記事や投書を事実と主張に読み分け，投書を参考に意見文を書くことを通して，自ら進んで，自分の主張や意見を伝わりやすい文で書く力を高めることができると考え，本単元を設定した。

（４）本単元に関わる教材化

本単元では，第３時で投書をモデルとして扱った。まず，投書に書かれている事実を赤，主張を青に色分けをした。**図２**の下の二つの文章は投書である。左の投書は意見のみ書かれているのに対し，右の投書は事実と意見が明確に書かれている。左の投書は記事の内容を知っている人にしか伝わりにくいが，右の投書は記事を知らない人にもわかる。この二つを比較し，どちらが伝わりやすいかを考えることで，生徒達は，事実を交えて主張を書いた方が伝わりやすいことに気づくことができる。そして，相手意識をもって書くことを学ぶことができる。また，元の記事の事実について色分けをさせることで，投書に書かれた事実の確認と，投書に書かれた以外の事実も同時に確認していく。

朝日新聞　2009年(平成21年)9月6日　日曜日

中高一貫 東京・区立九段校
高校段階で1割転学
「責任放棄」と批判も

朝日新聞　2009年(平成21年)9月12日　土曜日

区立九段校転学問題

学校の責任放棄とはいえない

公立なら全員に学ぶ機会を

図２　記事と投書の作業例

朝日新聞　2009年(平成21年)9月6日　日曜日　1

中高一貫 東京・区立九段校
高校段階で1割転学
「責任放棄」と批判も

中高6年間で一貫教育をする東京都の千代田区立九段中等教育学校で、中学段階を終えた1期生の生徒のうち、1割強に当たる18人が高校段階に進まず、他の学校に入学していたことがわかった。「学習態度に問題がある」などとして、別の高校への進学を勧めた生徒が多く含まれていたという。

同校は「高校の授業についていけない可能性があり、納得のうえでの転学だ」としているが、「一貫教育を前提にしているにもかかわらず、学校が責任を放棄している」という批判も出ている。

九段中等教育学校は、千代田区が都立九段高校を都から譲り受け、06年に開校した。同校によると、同年の入学者選抜で合格した「入試1期生」は昨年4月時点で160人が在籍していたが、今年4月、高校段階に当たる後期課程に進む際、18人が外部の学校に進んだ。

学校側は、これらの生徒の多くについて「授業中にノートをとらなかったり、学校が求める補習に参加しなかったりなど学習態度に問題があった」としている。保護者を交えて面接し、「高校で授業についていけず、留年の可能性もある」と話して外部進学を選択肢として示したという。

高木克校長は「いずれの場合も保護者を含めて納得した上での選択だった」と言う。この学年ではこのほか、中学3年の段階で転校した生徒が7人いて、現在は135人にまで減っている。

公立の中高一貫校は、大都市圏を中心に、「公立複雑」のてこ入れ策として相次いで設立。東京都教委によると、都立の中高一貫校で高校段階に進んだ生徒がいる学校は4校あるが、今年度、外部の学校に入った生徒は全部で5人程度という。（宮本茂嶺）

朝日新聞　2009年(平成21年)9月12日　土曜日　12版▲

■区立九段校転学問題

学校の責任放棄とはいえぬ

日本語教師　佐々木　健悦（千葉県白井市　61）

中高一貫教育をする東京都の千代田区立九段中等教育学校で、中学段階を終えた一期生の生徒の1割強が「学習態度に問題がある」などとして別の高校への進学を勧められていたという（5日夕刊）。これに対し、「学校の責任放棄」とする意見もあるが、私はやむを得ないと思う。

同校の入学選抜には「区民枠」と「（区民以外の）都民枠」がある。09年度の倍率はそれぞれ1・7倍と10・0倍で、学力の差は大きい。「受け入れた生徒は最後まで責任を持ってケアせよ」と言われても初めから無理がある。

私は三十数年間高校教員をして進学校も底辺校も経験したが、大学進学指導をする一方で、学力が劣る生徒もきめ細かく指導するというのは容易なことではない。すべて学校が悪い、教員の指導が悪い、という前に、現場の実情にも目を向けてほしい。

公立なら全員に学ぶ機会を

主婦　大塚　香織（東京都三鷹市　38）

千代田区立九段中等教育学校についての記事を読んで驚きました。学校側は責任を持ってすべての子供たちを預かったのではないのでしょうか。中高一貫校といっても公立の学校です。もし、大学入試合格者数の皮算用でしか子供たちをみることができないのであれば、それは何とも殺伐とした学校生活としか思えません。

都立の一貫校では、子供の理解度によって夏休みに補習をしたり添削をしたりと、先生方は一生懸命と聞きます。九段校の実情はわかりませんが、どちらにせよ、学校はなぜ、それほどまでに追いつめられているのでしょうか。

民主党の子育て支援は、多くが数年に消えていくと思います。それならば、公立学校の充実に使えないものでしょうか。先生方には、職業への誇りとともに保護者が学校を信頼できるような努力を見せていただきたいと思います。

（５）本時案

① 主眼：誰にでも伝わりやすい意見文を書こうとしている生徒が，意見文を書くための事実と主張を読み取る場面で，選んだ投書の元の記事を見つけ，投書と元の記事に書かれている事実と主張を色分けする事を通して，意見文を書くための見通しをもつことができる。

② 展開

段階	学習活動	予想される生徒の反応	◇教師の指導・援助 評価	時間	備考
導入	1 学習問題を確認し学習課題を設定する	ア 伝わりやすい意見文を書くためにはどうしたらいいのかを考えていました。	◇学習問題を確認する。	5	
		学習問題：誰にでも伝わりやすい意見文を書くためにはどうしたらいいだろうか			
		イ 参考になる投書欄を見つけることができた。 ウ 投書は書き方の参考になったり自分の意見をまとめやすくするが，投書だけでは意見文は書けない。 エ 投書だけだと，人の意見や意見の根拠をそのまま使うことになる。元の記事も見つけないといけない。	◇意見文の参考にするための投書を見つけられたかどうかを確認する。 ◇エのような発言から学習課題を設定する。		投書
		学習課題：元の記事を見つけて，事実と主張を明確にしよう			
／展開	2 元の記事を見つける	オ 私の投書は産経新聞の「米大統領，広島長崎訪問を」だ。大統領がノーベル平和賞をもらったのは10月10日だから，産経新聞の10月10日を見よう。 カ 僕は朝日新聞の「八ツ場ダム中止の表明に賛同」だから，９月18日の朝日新聞を見よう。	◇新聞を用意し，その中から投書に書かれている意見文の元の記事を探すように促す。 ◇困っている生徒には，手掛かりとなる日付を示す。	10	新聞
	3 事実と主張の二つに色分けする	キ 投書の事実は大統領が平和賞を受賞したこと。授賞理由は，実績はないがみんなが望んでいることを宣言したことだ。 ク 前原国土交通大臣が八ツ場ダムの建設中止を明言したことと，その理由が事実だな。 ケ 記事の中の主張は，ノーベル賞委員会などのオバマ大統領の考えと取り組みを支持する主張と，中東問題を抱えたままなのだから時期尚早という主張，投書の被爆地を訪問すべきという主張と３つあるな。 コ 投書や国は，民意に沿って必要のないものをなくすという主張だ。	◇元の記事を見つけたら，事実と主張を区別するために，記事と投書に書かれた事実に赤，主張に青の線を引くように促す。 ◇色分けに難しさを感じている生徒には，誰の立場に基づいた記述かを問いながら，共に少しずつ確認を進める。	15	
	4 意見文を書くための見通しをもつ	サ 私の意見は，授賞に反対の立場で書こう。確かに考え方は素晴らしいかもしれないけれど，授賞理由骨子の文末が「努力」や「重視」などで，実際の成果がないから，本当に実現されてからの授賞でもいいと思う。 シ 僕の主張は中止に賛成だ。国のいうように，無駄なものは見直すべきだと思うし，今後の河川行政のあり方について「できるだけダムに頼らない」としている上に「ダムの必要な河川整備もある」と，柔軟な考え方をしているからだ。	◇事実と自分の主張をワークシートに記入し，意見文を書くための見通しをもつように促す。 意見文を書くための見通しをもつことができる。（ワークシート） イ② ◇見通しがもてない生徒には，どの主張を中心にするのかを共に考える。	15	ワークシート
／終末	5 感想を記入する	ス 新聞を探して，いろんな絵もあって楽しかった。 セ 書くための材料が決まったので，次回は書けそうだ。 ソ 事実と主張を決めたので，友達の意見文のように両方入れて意見文を書きたい。	◇本時の感想を記入するように促す。 ◇セ，ソのような感想から，次時は意見文を書くことを確認する。	5	

（６）授業の実際と考察

構成を意識して意見文を書くことの見通しをもつことができたＹ生

〈前時〉意見文の参考となる投書として「新型インフルエンザ対策，受験生にも配慮を」

を選んだＹ生はワークシートに感想として「意見文を書くことは難しい」と記入していた。

〈本時〉生徒は課題設定の場面で，伝わりやすい意見文を書くためには事実と主張を明確にしなければならないこと，投書に書かれている事実だけでは，意見文を書くためには不十分であることに気づいた。そこで，学習課題を「元の記事を見つけて，事実と主張を明確にしよう」と設定し，前時選んだ投書を，事実を赤，主張を青で色分けすることで明確にし，ワークシートに書き写した。

Ｙ生：（ものさしを使い丁寧に投書に線を引く。すぐに「事実」を写す作業に入る。すらすら写している。「主張」を写す作業に入る。）
Ａ生：「書き終わった？」
Ｙ生：「うん」
Ａ生：「はやいね」
Ｙ生：（記入した内容を読み返し，「現に感染が拡大しているとされる中学・高校生への対応は？」の前に「でも」と記入する。）

図３　Ｙ生のワークシート

その後，生徒は元となった記事を新聞の中から探した。記事も投書と同様，事実と主張を明確にして書き写した。Ｙ生は，書き写しては，読み返し，また書き写すという作業を繰り返した。終末でＹ生は「投書に書かれている事実と主張を抜き出せた。元になる記事からも事実を抜き出せたので，次回は意見文を書きたい」と本時の感想を記入した（図３）。

【考察】

新聞の記事や投書を事実と主張に読み分けることで，投書に書かれた主張を見返し，「でも」と接続詞を入れることで意見文を書く見通しをもつことができた姿である。また，前時まで「意見文を書くことは難しい」と苦手意識をもっていた生徒が見通しをもてたことで「次回は意見文を書きたい」と自ら進んで書こうという気持ちをもった。本単元を終えて，第１時に書いたときと比べ書きやすかったかどうか聞き取りを行ったところ 10 名中９名が「書きやすくなった」と答えた。このことから，新聞の記事や投書を事実と主張に読み分けることで，意見文を書く見通しがもてるとともに，自ら進んで，自分の主張や意見を伝わりやすい文で書く力を高めることに有効であることが明らかとなった。

Ⅴ　研究のまとめ

○　今年で閉校する中学校のことを講座にしたことは，生徒たちにとって身近でタイムリーな題材として，自ら学ぶ姿に結びつくことが見えた。

○　長野県 NIE 推進協議会の方々には，生徒のみならず教師も多くの時間を割いてご指導いただいた。大変ありがたかった。

○　新聞の記事や投書を事実と主張に読み分けることは，意見文を書く見通しがもてるとともに，自ら進んで，自分の主張や意見を伝わりやすい文で書く力を高めることに有効である。

○　目的意識，課題意識をもたせ，試しの経験を経ることで，新聞に目指すべき形を見いだし，そこに近づけようと自ら意欲をもって取り組めるようになることがわかった。

Ⅵ　残された課題

○　２年次の研究については，今年度と同様に，研究テーマの目指す姿のために新聞活用がどうあったらよいかを考えて取り組んでいきたい。

○　「本日の新聞一面」は関心を高める意味で大変意義深い取り組みで継続をしたい。ただし，より多くの職員が関われる方法を考えたい（例：全職員が当番制で関われるようにし，当番に当たったらじっくりと新聞を読んでもらって翌日に記事と共にコメントを掲示するなど）。

二年選択国語「意見文を書こう」　二年　四組　　番　氏名

学習問題「誰にでも伝わりやすい意見文を書くためにはどうしたらいいだろう」

「事実と主張の両方が入った、誰にでも伝わりやすい文章」と私たちが考えた投書
（九月十二日付朝日新聞）

中高一貫教育をする東京都の千代田区立九段中等教育学校で、中学段階を終えた一期生の生徒の1割強が「学習態度に問題がある」などとして別の高校への進学を勧められていたという（5日夕刊）。

これに対し、「学校の責任放棄」とする意見もあるが、私はやむを得ないと思う。

同校の入学選抜には「区民枠」と「（区民以外の）都民枠」がある。09年度の倍率はそれぞれ1・7倍と10・0倍で、学力の差は大きい。「受け入れた生徒は最後まで責任を持ってケアせよ」と言われても初めから無理がある。

私は三十数年間高校教員をして進学校も底辺校も経験したが、大学進学指導をする一方で、学力が劣る生徒もきめ細かく指導するというのは容易なことではない。すべて学校が悪い、教員の指導が悪い、という前に、現場の実情にも目を向けてほしい。

【投書に書かれている事実】

○新型インフルエンザワクチンの接種が、近く始まることとなった。

○医師や看護師ら医療従事者、妊婦と容体悪化が予想される人、小学校低学年以下の子ども、1歳未満の子を持つ親などを優先にする。

【投書の元となる記事に書かれている事実】

○対象者は計5400万人

7月以降の新型インフルエンザ感染者は、推計234万人に上って、死亡や重症者の増加を食い止めることが期待されている。

○厚労省は、当初2回としていた接種回数を「13歳以上は原則1回」と改めた上で、スケジュールの目安を公表する。

【投書に書かれている主張】

○それなりにうなずける対象者ばかり。

○現に感染が拡大しているときまでも中学、高校生への対応は？

○受験生なのに予防接種が受けられなくなりのは不安だ。

○接種が後回しになるならそれなりの対応、不利にならないようにしてほしい。

【投書の元となる記事に書かれている主張】

【私の意見】

やはり、投書と同じ意見！！

家に赤ちゃんがいて、受験生だから、インフルエンザのこと、よく話したりする。

だから、

今日の感想と次回に向けて

今日は、投書に書かれている事実と主張を抜き出すことができた。

元になる記事からも事実を抜き出せたので、次回は意見文を書きたい。